

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成31年1月24日 (2019.1.24)

【公表番号】特表2018-500390(P2018-500390A)

【公表日】平成30年1月11日 (2018.1.11)

【年通号数】公開・登録公報2018-001

【出願番号】特願2017-549860(P2017-549860)

【国際特許分類】

A 6 1 K 38/08 (2019.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 1/04 (2006.01)

A 6 1 P 13/08 (2006.01)

A 6 1 P 15/00 (2006.01)

A 6 1 P 11/00 (2006.01)

A 6 1 P 17/00 (2006.01)

A 6 1 P 1/16 (2006.01)

A 6 1 P 19/00 (2006.01)

A 6 1 P 1/18 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 K 38/02 (2006.01)

C 0 7 K 7/06 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 38/08

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 1/04

A 6 1 P 13/08

A 6 1 P 15/00

A 6 1 P 11/00

A 6 1 P 17/00

A 6 1 P 1/16

A 6 1 P 19/00

A 6 1 P 1/18

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 39/395 D

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 K 38/02

C 0 7 K 7/06 Z N A

【手続補正書】

【提出日】平成30年12月10日 (2018.12.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

対象の幹細胞様特性を有する腫瘍伝播細胞（TPC）の集団を含む脳腫瘍を治療するための医薬組成物であって、前記医薬組成物が、治療量の治療剤を含み且つ薬学的に許容される担体を含んでいてもよく、

前記治療剤が、W n t 5 a のペプチド誘導体を含み、

前記治療量の治療剤が、

（１）W n t 5 a の発現レベルに影響を及ぼすことによって腫瘍の成長、遊走、浸潤またはその組合せを対照に比して低下させ、かつ

（２）前記対象の生存率を対照に比して増大させるのに有効である、医薬組成物。

## 【請求項 2】

前記脳腫瘍が、

(i) 神経膠腫であるか、或いは

(ii) 髄芽腫、髄膜腫、シュワン細胞腫、頭蓋咽頭腫、胚細胞腫瘍および松果体部腫瘍からなる群より選択される、

請求項 1 に記載の医薬組成物。

## 【請求項 3】

前記神経膠腫が、

(a) 星状細胞腫、乏突起神経膠腫および上衣腫からなる群より選択されるか、

(b) 間葉系組織、前神経組織、典型的組織またはその組合せを含むか、或いは

(c) W n t 5 a リガンド陽性細胞を含む、請求項 2 に記載の医薬組成物。

## 【請求項 4】

前記星状細胞腫、前記乏突起神経膠腫および前記上衣腫が退形成性である、請求項 3 に記載の医薬組成物。

## 【請求項 5】

前記星状細胞腫が多形神経膠芽腫である、請求項 3 に記載の医薬組成物。

## 【請求項 6】

前記ペプチド誘導体が、

(i) W n t 5 a アンタゴニストであるか、

(ii) 合成のペプチド誘導体であるか、

(iii) ヘキサペプチド、ペンタペプチドおよびその組合せからなる群より選択されるか、或いは

(iv) B o x 5（配列番号 1）の誘導体である、

請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載の医薬組成物。

## 【請求項 7】

前記ペプチド誘導体が、(iii) ヘキサペプチド、ペンタペプチドおよびその組合せからなる群より選択され、且つ

前記ヘキサペプチドが、

(a) アミノ酸配列 M D G C E L（配列番号 1）のものであるか、

(b) アミノ酸配列 L E C G D M（配列番号 2）のものであるか、或いは

(c) アミノ酸配列 L E G D M（配列番号 3）のものである、

請求項 6 に記載の医薬組成物。

## 【請求項 8】

前記対照が、前記医薬組成物で治療していない対象である、請求項 1 に記載の医薬組成物。

## 【請求項 9】

前記神経膠腫が、(b) 間葉系組織、前神経組織、典型的組織またはその組合せを含み、且つ

前記間葉系組織および前記前神経組織が、典型的組織と比較したW n t 5 aリガンドの発現レベルの増大を特徴とする、請求項3に記載の医薬組成物。

【請求項10】

前記W n t 5 aリガンドの発現レベルの増大が、細胞遊走を示す、請求項9に記載の医薬組成物。

【請求項11】

前記幹細胞様特性を有する腫瘍伝播細胞（T P C）の集団が、浸潤性表現型を有する、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項12】

前記ペプチド誘導体によるW n t 5 aの発現および/または活性の調節が、G F I T P Cの浸潤性を用量依存的に低下させるのに有効である、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項13】

前記神経膠腫が、(c)W n t 5 aリガンド陽性細胞を含み、且つ

前記W n t 5 aリガンド陽性細胞が、

(a')推定神経芽細胞マーカーであるP S A - N C A Mを共発現し、W n t 5 a陽性細胞およびD 1 x 2陽性細胞の最大60%がP S A - N C A Mに対して免疫反応性であるか、

(b')対照と比較したC D 4 4の発現レベルの増大によって特徴付けられるか、或いは

(c')推定幹細胞様腫瘍伝播細胞（T P C）マーカーであるE p h A 2を共発現しない、

請求項3に記載の医薬組成物。

【請求項14】

前記浸潤性表現型が、浸潤マーカーであるF R A S 1関連細胞外マトリックスタンパク質2（F r e m 2）の発現を含む、請求項11に記載の医薬組成物。

【請求項15】

前記脳腫瘍が、(i)神経膠腫であり、且つ

前記ペプチド誘導体が、T P Cの集団を含む腫瘍の脳実質への浸潤を未処理対照に比して低下させるのに有効である、請求項2に記載の医薬組成物。